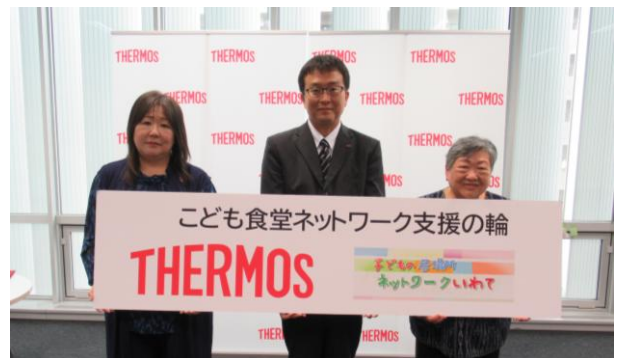


## サーモスが岩手の子ども食堂へフライパン 160 枚を寄贈 「子どもの居場所ネットワークいわて」への支援実施で、 子ども食堂での課題解決に貢献

魔法びんのグローバル企業として、人と社会に快適で環境にもやさしいライフスタイルを提案するサーモス株式会社（本社：東京都港区 社長：片岡 有）は、地域の子どもの健やかな成長を願い、岩手県内の子ども食堂・地域食堂等（以下、子ども食堂）へフライパンを贈呈いたしました。

本取り組みは、岩手県子どもの居場所ネットワーク形成支援事業受託先である「認定特定非営利活動法人インクルいわて」のご協力のもと実施しました。サーモスのフライパン 160 枚を、岩手県内の子ども食堂・地域食堂等 115 か所に贈呈しました。なお、フライパンの贈呈式は、2025 年 10 月 11 日（土）にキオクシアアイーナにて実施いたしました。

子ども食堂とは、食事の提供や居場所づくりなどを行う場所で、家庭環境の変化などから需要が高まる一方、運営にあたっては様々な課題があります。子ども食堂が抱える調理の効率化といった課題を解決するために、サーモスは 2024 年に初の共同支援としてオフィシャルパートナーの川崎フロンターレとともに「かわさき子ども食堂ネットワーク」を通じて、サーモス製品を贈呈し、川崎市内の子ども食堂での調理効率化に貢献しました。その後「神奈川子ども食堂・地域食堂ネットワーク」に支援の輪を広げ、今回の岩手県での活動につながりました。



左から「子どもの居場所ネットワークいわて」共同代表 山屋 理恵氏、サーモス 西郡 光隆、  
「子どもの居場所ネットワークいわて」共同代表 高野 美恵子氏

### ◆子どもの居場所ネットワークいわて 共同代表 山屋 理恵氏

贈呈式では、「子どもの居場所ネットワークいわて」の共同代表を務めている山屋氏にご登壇いただき、今回の贈呈に対する感謝の言葉と、フライパン寄贈が子ども食堂にどのように役立つかについてお話しいただきました。

『このたびは、子どもの居場所ネットワークいわてにたくさんの温かいご支援をいただきましてありがとうございます。サーモスのフライパンをいただけるというお話をいただいた時に、沿岸の子ども食堂もそうですが、「食」を扱う上で憧れのサーモスの品物を、私たち全員で共通でいただけること、とても嬉しく思いました。当ネットワークに参加している子ども食堂等を代表して感謝申し上げます。また、今回贈呈いただくサーモスのフライパンを大切に使い、本来の私たちの目的である子どもたちとの大事な時間を共有する機会を増やせていければと考えています。』



実際に贈呈したフライパン

### ◆サーモス株式会社 社長室 経営企画課 マネジャー 西郡 光隆

最後に当社の西郡より、今回の贈呈経緯について説明しました。  
『サーモスは「人と社会に快適で環境にもやさしいライフスタイルを提案します」という企業理念のもと、サステナビリティを重視した経営を進めています。本取り組みは、オフィシャルパートナーである川崎フロンターレ様、神奈川県川崎市の NPO 法人かわさき子ども食堂ネットワーク様とのご縁から始まりました。その流れを受け、このたび子どもの居場所ネットワークいわて様への支援を開始します。』

子ども食堂は、食事提供や居場所づくりを目的に需要が高まる一方、運営にはさまざまな課題があります。食に関わる企業として当社はその趣旨に賛同し、製品を贈呈いたします。深型設計のフライパンは一度に多くを調理でき、大人数向けの調理に適しています。今回の贈呈を通して、子ども食堂のスタッフが効率的に作業できることで、提供メニューの幅が広がり、時間に余裕ができ、子どもたちと触れ合う機会が増え、子ども食堂を利用する子どもたちの笑顔が広がることを願っております』と締めくくりました。

#### ■子どもの居場所ネットワークいわての支援内容

内容：販売店様の流通过程で発生する未使用かつ使用可能な製品「フライパン」を「子どもの居場所ネットワークいわて」に160枚提供



#### ■「子どもの居場所ネットワークいわて」とは

子ども食堂や学習支援等、子どもの居場所づくりに取り組む団体による連携組織です。岩手県からの支援を受け、官民一体で県内各地域の子どもの居場所づくりの取り組み拡大を図るために活動しています。

